



5月12日は  
看護の日

5月12日は看護の日

## 「みんなで話そう—看護の出前授業」キャンペーン

### 看護職による出前授業のご案内

謹啓 早春の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございます。ごさいます。

このたび、鹿児島県看護協会および日本教育新聞社では、2021年度「看護の日・看護週間」事業（厚生労働省・日本看護協会主催、文部科学省後援）の一環として「みんなで話そう—看護の出前授業」を実施いたします。

この出前授業（講師派遣）では、鹿児島県内の中学校・高等学校を対象に、生徒たちが看護職（保健師、助産師、看護師）の話を直接聞いたり触れ合ったりする機会を提供しています。2004年にスタートし、昨年度は全国で約300校・3万人近くの生徒の皆さんが授業に参加し、「いのちの大切さ」、キャリア教育に役立つ「看護職の仕事の紹介」「看護職になるための進路」などの話に熱心に耳を傾けています。

どうぞ、貴校でも「看護の出前授業」をご活用いただきたく、ここにご案内申し上げます。 謹白

記

事業名：「みんなで話そう—看護の出前授業」

主催：鹿児島県看護協会、日本教育新聞社

内容：鹿児島県内の看護職による出前授業

授業内容：①いのちの大切さ、いのちの授業

- (例) ②看護職の仕事（仕事の内容・魅力、患者とのエピソードなど）  
③看護職への道（資格の取り方、看護職になるための進路など）  
④簡単な看護技術の体験（正しい手洗い体験、聴診器で心音を聞く、血圧や脈を測るなど）  
⑤その他看護に興味を持ってもらえる内容等

※授業内容の詳細は、貴校と鹿児島県看護協会・講師となる看護職とで相談のうえ決めていきます。

お申し込み時に貴校のご希望をぜひお伝えください。

開催時期：2021年5～12月（お申し込み時に実施希望日をお知らせください）

申込：日本教育新聞社（申し込み事務局）へ [WEB 申込みフォーム](http://www.kyoiku-press.co.jp/kango/index.html)よりお申込みください。

（日本教育新聞社ホームページ＝ <http://www.kyoiku-press.co.jp/kango/index.html>）

なお、現役の看護職が講師を務めるため、講師派遣の調整などに時間を要する場合がございます。開催希望日の2カ月前までにはお申し込みくださいますようお願いいたします。

※申込方法は裏面をご確認ください。インターネット環境等でWEB申込みが利用できない場合は、申込み事務局にお電話ください。

費用：お申し込みは無料です。

講師の交通費を貴校にてご負担ください。

講師への謝金は貴校の規定に沿ってご用意いただければ幸いです。

問合せ先：日本教育新聞社「みんなで話そう—看護の出前授業」申込み事務局 ☎03-3280-7058

WEB申込み開始!



WEB応募フォームお申込み完了までの流れ

①「日本教育新聞社」のホームページにアクセスし、トップにあるWEB申込フォーム bannerside をご選択ください。



② 看護の出前授業の専用ページから学校の所在地(都道府県名)をご選択ください。

③ 応募フォームが開いた後、必須項目を入力し、確認ページへ進むボタンをご選択ください。

④ 入力内容に誤りがないかを確認し、送信ボタンをご選択ください。

⑤ 送信後、自動返信メールが届きます。

※お申込みいただいた内容に不明点がある場合は、事務局よりメールにて確認のご連絡をさせていただきます。

⑥ 事務局での内容確認が出来次第、受付完了となります。

※ 後日、各府県看護協会もしくは講師から学校へ直接連絡が入りますので、ご連絡をお待ちください。

取材協力をお願い

鹿児島県看護協会では、「看護の出前授業」を通じて生徒の皆さまに、看護に親しみを持っていただくとともに、こうした看護職の活動を地域社会の皆さまに広く知っていただきたいと考えています。そのため、地域の新聞社、テレビ局などメディアの方々取材の呼び掛けを行い、授業の様子を報道していただく機会とさせていただきます。

申込用紙に、取材対応についてご記入いただく箇所がございますので、お申し込み時に可否をお知らせください。貴校の活動を地域にお知らせする一助にもなるかと存じますので、ぜひご協力いただけますと幸いです。

※取材依頼の受付などは鹿児島県看護協会が行い、依頼があった際は貴校にお知らせします。

※取材は、メディアから申し込みがあった場合に行われるものであり、申込用紙上で「取材可」としていただいた場合でも、必ず取材が入るわけではありません。

赤ちゃんには愛情が不可欠

看護の出前授業通し、いのちの尊さを学ぶ

次は自分の成長の過程を、スマートフォンで撮りながら、先生の手で優しく抱かれています。先生は「赤ちゃんは、生きているだけで、自分たちと同じように、命を大切に育ててあげたい」と話していました。先生は「赤ちゃんは、生きているだけで、自分たちと同じように、命を大切に育ててあげたい」と話していました。先生は「赤ちゃんは、生きているだけで、自分たちと同じように、命を大切に育ててあげたい」と話していました。

「赤ちゃんには愛情が不可欠」と話した先生は、赤ちゃんを抱きかかると、目を細く微笑みます。先生は「赤ちゃんは、生きているだけで、自分たちと同じように、命を大切に育ててあげたい」と話していました。先生は「赤ちゃんは、生きているだけで、自分たちと同じように、命を大切に育ててあげたい」と話していました。

埼玉・上尾市立上尾中学校

公益社団法人日本看護協会と日本教育新聞社が共同で主催する「みんなで話そうー看護の出前授業」は、主に中学・高等学校に、看護職（保健師、助産師、看護婦）が出席し、生徒にいのちの大切さや看護の役割についての授業を行っている。7月に埼玉県内で行われた授業の様子を取材した。



761名の生徒たちを中心に行われた出前授業



妊婦シミュレーターを覗くその大きな笑顔

「赤ちゃんには愛情が不可欠」と話した先生は、赤ちゃんを抱きかかると、目を細く微笑みます。先生は「赤ちゃんは、生きているだけで、自分たちと同じように、命を大切に育ててあげたい」と話していました。先生は「赤ちゃんは、生きているだけで、自分たちと同じように、命を大切に育ててあげたい」と話していました。

(日本教育新聞 2019年8月26日付)